

鳴海周平の

全国ぶらり旅

北海道江差編

ナルミの所在地である乙部町から車で約20分のところにある江差町。北海道がまだ蝦夷地と呼ばれていた頃にニシン漁で栄えた商人の街でもあります。「江差の五月は江戸にもない」と言われたほど栄えていた当時の様子を今も残している江差町を訪ねました。

HOKKAIDO

「ようこそいらつしゃいました。寒いですから中へどうぞ。」
そういつて温かく迎えてくれたのは、375年の歴史を誇る嶽浄山正覚院の松村俊昭住職でした。松村住職には、私もナルミが毎月発行している「月刊ぶんぶん通信」で連載をして頂いており、いつも大変お世話になっています。

この寺も松前町の江良から移りきて375年。私で23代目になります。禅寺というのは世襲制ではないのですが、養父に跡継ぎがなかったので私が35歳の時にこの寺をお預かりしたのです。当時私は英語の教師をしていたのですが、突然の出家だったので周りは皆、大変驚いてましたね。」

「住職こんにちは。今日は是非住職のお寺と江差の歴史を教えてくださいたいと思って来ました。よろしくお願いします。」

「江差はとても歴史が古い街です。」

正覚院がもつ375年という歴史もさることながら、境内にも歴史的な価値を持つものが数多くあります。玄関を入れてすぐ目につくのは樹齢220年のヒバの棟木。ヒバは樹齢と同じ耐久年数があると言われ





嶽浄山正覚院の松村俊昭住職。



窓から鷗島が良く見えるこの場所は、五木寛之氏のベストセラー「青春の門」で主人公が居候していた舞台にもなりました。



樹齢220年のヒバを使用した棟木。樹齢と同じ年数の耐久性があるといわれています。

「江差の五月は江戸にもない、と言われたほどニシン漁が盛んだったのは江戸末期の頃でしょう。江差への一航海で江戸での1年分の稼ぎをあげることが出来たそうです。近江からもたくさんの方が出入りしていました。よく『近江商人の跡にはペンペン草も生えない』と言われるますが、江差にはたくさんの方が文化財

ているそうです。「このお寺の棟木は110年前に伐採したもので、あと110年はもちますよ。」と教えて頂きました。



板の間が畳に早替わり。ここで25年前から月に1度行われている朝粥の会が開かれます。

を残してくれましたね。」
近江商人の大橋宇兵衛によって建てられた中村家も、町の大切な文化遺産として残されています。
また江差町はヒバ(ビノキアスナロ)の産地としても栄え、ニシンの交易と共に町の繁栄に貢献しました。
しかし明治に入ると札幌や函館といった都市へ政治・経済の中心が移っていき、江差は少しずつ衰退していったそうです。
「今では人口1万人足らずになっ



ウロコイ辻薬局 土蔵をイメージした外観はいにしえ街道の雰囲気を一っそう盛り上げてくれています。店内では昔土蔵に使われていた梁をベンチとして再利用しています。



横山家 「江差の五月は江戸にもない」といわれたほどニシン漁が栄えていた頃建てられた鯨御殿。今から160年前に建てられ、北海道文化財に指定されています。



中村家 江戸時代に近江商人の大橋宇兵衛によって建てられました。当時の建築様式の代表的な造りです。



繁次郎 大変とんちに長けていて、町中に笑いを振りまいていた人気者だったそうです。口癖は「笑え、笑え、へば、ええことある。(笑いなさい、笑いなさい、そうすれば、いいことがありますよ。)」



いにしえ街道 江戸期からの歴史的建造物が建ち並ぶこの通りを、15年かけて修復、新築して出来た街道。旧国道沿いに1.1kmにわたって続いています。



追分会館 古い歴史を持ち、全国的にも有名な「江差追分」を学び体感出来る施設として、1982年に建設されました。



鳴海土蔵 明治初期に建てられた石積み土蔵。所有者は私どもナルミの会長である鳴海巨の親戚にあたります。歴史的景観形成建物に指定されています。



山田屋菓子舗 大福やお菓子が美味しいことで地元でもファンが多い山田屋さん。いにしえ街道の顔のひとつです。



いへんなものだったようです。全国的にも有名な江差追分は、この時代に信州中仙道で唄われていた馬子唄がやはり、越後に伝わった舟歌がさらに江差に伝わり、現在の基になったそうです。

毎年行われる『江差追分全国大会』には全国からたくさんの方が集まってくるんですよ。」

シーズン中の江差追分会館では、歴代の優勝者や師匠の実演を聞くことが出来る他、地元の師匠達から追分の話を聞くことも出来るそうです。

「民謡の道は江差追分に始まって江差追分に終わる、と言われていたらしいですね。情緒豊かな江差追分は民謡を愛する人にはたまらなく魅力的なものなのでしょう。江差追分をはじめ、この町には本当にたくさんさんの素晴らしい宝物があります。特に日本海に沈む夕日は何度見ても感動します。こんなに美しくて貴重な景観がある江差という街を後世に残していくために、私は今『古事の森』という計画を推進していきます。作家の立松和平さんと一緒に、400年後もこの自然を残していこ

う、とヒバを植えているんです。江差は全国で10箇所植樹地の3番目。ちょうど3年経ちましたから、あと397年の育樹と植樹をしなくてはなりません。大ロマンですね(笑)。」

そう言って楽しそうに笑う松村住職のお言葉に、江差町の明るい未来を垣間見た気がしました。

なお今回のぶらり旅では、嶽浄山正覚院の松村俊昭住職に多大なるご協力をいただきました。どうもありがとうございます。